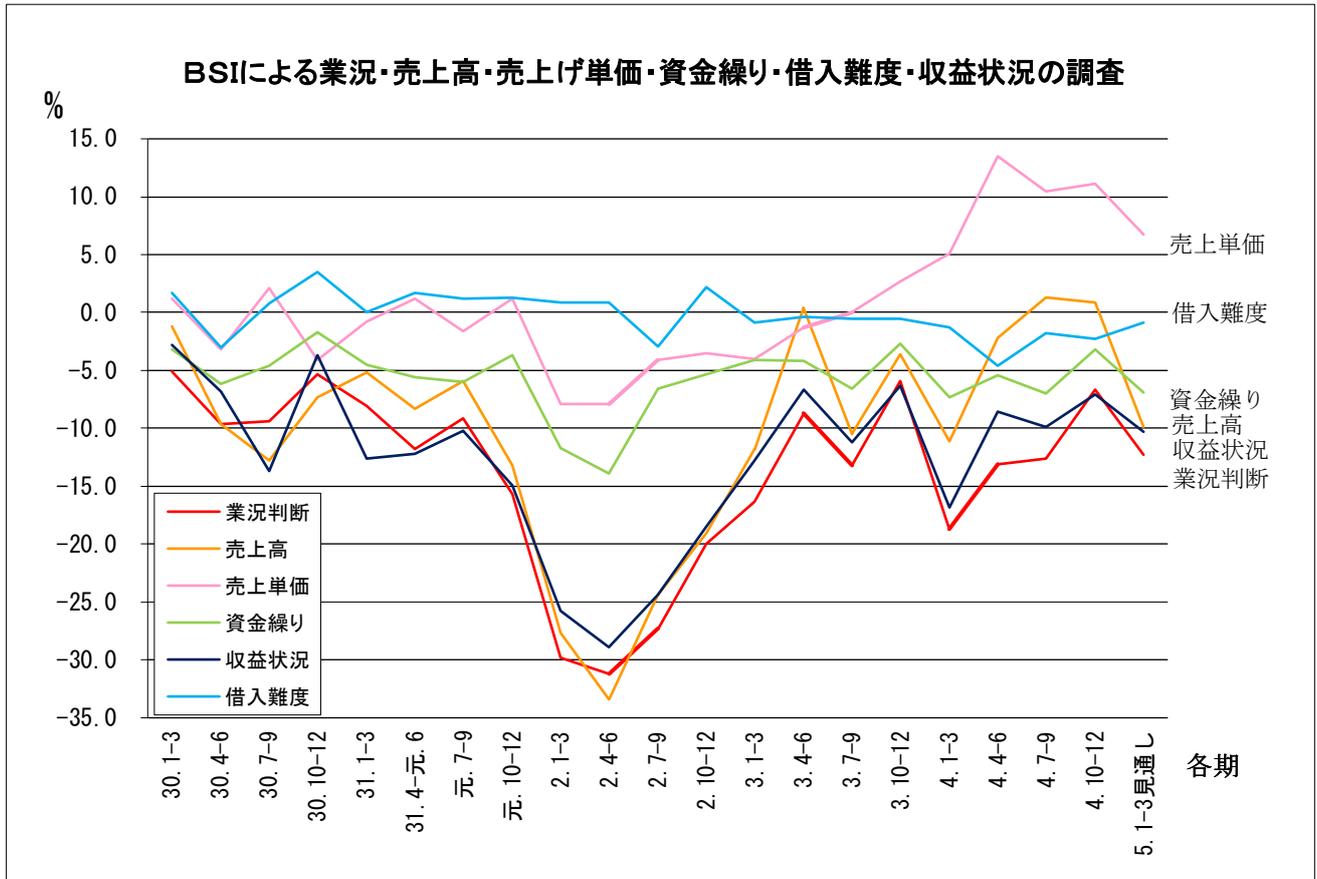


中小企業景況調査結果報告書

令和4年10～12月期(令和5年1～3月期予測)
 一鳥取県下4商工会議所の調査より



先期比*()内は令和4年7～9月期の数字

	回収数	売上高	売上単価	資金繰り	借入難度	収益状況	業況判断
全産業合計	112	0.9 (1.3)	11.1 (10.5)	-3.2 (-7.0)	-2.3 (-1.8)	-7.1 (-9.9)	-6.7 (-12.6)
製造業	30	11.7 (11.0)	16.7 (17.2)	-8.3 (-10.9)	-5.0 (-3.1)	-6.7 (0.0)	-3.4 (-4.79)
非製造業	82	-3.1 (-2.4)	9.0 (7.8)	-1.2 (-5.5)	-1.3 (-1.3)	-7.2 (-13.7)	-7.8 (-15.7)
(建設業)	25	-8.0 (-8.0)	0.0 (-4.0)	-6.0 (-2.0)	0.0 (6.3)	-14.0 (-18.0)	-12.0 (-14.0)
(卸売業)	19	5.3 (-8.4)	26.3 (19.4)	2.7 (-5.6)	0.0 (0.0)	13.2 (-16.7)	7.9 (-20.6)
(小売業)	19	-18.5 (-7.5)	2.5 (14.3)	-2.5 (-11.9)	-5.0 (-11.9)	-20.0 (-11.9)	-17.5 (-21.4)
(サービス業)	19	10.5 (15.0)	10.6 (5.3)	3.0 (-2.7)	0.0 (0.0)	-5.3 (-7.5)	-7.9 (-7.5)

来期(令和5年1～3月期)見通し*()内は(令和4年10～12月期)の見通し

	回収数	売上高	売上単価	資金繰り	借入難度	収益状況	業況判断
全産業合計	112	-9.9 (0.9)	6.7 (12.2)	-6.9 (7)	-0.9 (-2.2)	-10.3 (-6.5)	-12.3 (-7.4)
製造業	30	0.0 (14.1)	6.7 (17.2)	-3.5 (-6.5)	-3.6 (-1.6)	-6.7 (1.6)	-5.0 (0.0)
非製造業	82	-13.6 (-4.2)	6.7 (10.2)	-6.4 (-5.5)	0.0 (-2.5)	-11.6 (-9.6)	-14.9 (-10.2)
(建設業)	25	-10.0 (2.5)	2.0 (-8.0)	-8.0 (-4.0)	0.0 (2.1)	-16.0 (-8.0)	-16.7 (-8.0)
(卸売業)	19	-19.5 (-2.8)	19.4 (27.8)	0.0 (-2.8)	0.0 (0.0)	-5.6 (-2.8)	-5.6 (-2.8)
(小売業)	19	-15.8 (-15.0)	2.5 (16.7)	-7.5 (-9.5)	0.0 (-9.5)	-15.0 (-21.5)	-23.7 (-23.8)
(サービス業)	19	-10.5 (10.0)	5.3 (10.6)	-9.4 (-5.3)	0.0 (-2.8)	-7.9 (-5.0)	-15.8 (-5.0)

*BSI=(上昇・増加ー減少・下降)×1/2 (但し、「上昇・増加」+「横ばい」+「減少・下降」=100)

経営者の業況に対するマインドを反映するもの。(0%は「上昇・増加」と「減少・下降」が同数。「+」は上昇・増加、「-」は減少・下降)

■業況(グラフ参照)は……

今期は、物価高騰や新型コロナウイルス感染症の感染拡大(第8波)の影響が見受けられたものの、社会経済活動の正常化が進み、全産業合計の業況判断はマイナス6.7となっており、前期(22年7~9月)から5.9ポイント改善しました。

一方で来期の見通しは、電気・ガス料金などエネルギーコストの上昇が消費マインドの低下並びに企業収益力の低下を招くことが懸念され、全産業合計は借入難度を除く項目で悪化を示しています。

[今期(令和4年10~12月期)の動向]

全産業合計では売上高と借入難度を除く項目が前期から改善する結果となりました。

中でも卸売業の業況判断は28.5ポイント改善しており、売上高や売上単価、収益状況も大幅に好転しています。

一方で、小売業の業況判断は3.9ポイント改善しているものの売上高や売上単価、収益状況はいずれも前期から大幅に悪化しており、値上げによる消費マインドの低下、価格転嫁が進んでいない状況が推察されます。

[来期(令和5年1~3月期)の見通し]

全産業合計の来期業況判断はマイナス12.3と前期から4.9ポイント悪化しており、全体として厳しい状況となる見通しとなっています。食料品、日用品の値上げに加え、電気代やガス代などの光熱費上昇が家計の重荷となり、消費者の節約心理を助長するなど、消費・需要の停滞感が強まり、今後もこの傾向は続くものと推察されます。

■直面している経営上の問題点

1位:原材料・仕入れ価格上昇(24.1%)

2位:売上・受注の減少(14.4%)

3位:経費の増加(13.2%)

4位:人手不足(11.4%)

5位:消費・需要の停滞(10.2%)

「原材料・仕入れ価格上昇」(24.1%)が前期と同じく首位となっており、2位「売上・受注の減少」(14.4%)、3位「経費の増加」(13.2%)となっています。長期化するウクライナ問題や世界的なインフレで物価の高騰が続いており、前期に続き仕入れ価格の上昇や経費の増加など厳しい経営状況が続いています。

また、記述式の回答でも「全ての経費が上がり売上が追いつかない」(建設業・製造業)、「熱処理で使う電力料金の急激な高騰で利益が出ず事業存続が困難」(製造業)といった回答が見受けられ、物価高騰が経営に深刻な問題をもたらしていることが推察されます。

このほか、「社員にコロナ感染者が増え、人手不足が生じた」(製造業・サービス業)といった声も聞かれ、新型コロナウイルス・物価高騰・エネルギーコスト上昇などの影響により企業を取り巻く環境は一層厳しさを増しています。

■各社からのその他の問題点

- ・今もなお、コロナの影響を感じている。(小売業)
- ・コロナ感染による休業者が多発し工程に負荷が発生した。(製造業)
- ・製品価格を上げても連日のように原材料の値上がりの話がある状況です。社員及び社員の家族がコロナ感染で休む者が出ており、思うように製造出来ていません。(製造業)
- ・熱処理に使用する電力料の急激で大幅な高騰により収益が出せない状況が続いている。更なる値上げの見積も来ていて、事業の存続が困難となりつつある。(製造業)
- ・主に原材料が高騰しています。その他の経費も上昇し利益を圧迫しています。(製造業)
- ・補正予算の早期執行を期待する。(建設業)
- ・多少落ちつきましたが、材料などで2割程度の価格上昇や原材料の仕入が不安定な状況が続いています。(建設業)
- ・原材料の高騰により、利益を圧迫している。(建設業)
- ・原油価格も高止まり、全ての経費が上がって売上が追い付かない。一昨年、昨年と毎月のように材料が上がっていくのは、事業として成り立っていくのか?(建設業)
- ・全国割により、予約は大変好調でしたが人手不足が回復せず、新型コロナウイルスの濃厚接触等によりさらにそれに拍車がかかりました。また、全国割の規模縮小や感染拡大により新規予約数が伸び悩んでいます。(サービス業)
- ・コロナ感染者の増加による客数減少、食材価格の高騰で明るい見通しが考えられない。(飲食業)
- ・高校3年生の自動車教習許可を繰上げてほしい。1~3月集中を緩和しゆとりを持って教習に当たりたい。(自動車学校)